



## 教育目標達成のための目標と方策

## &lt;学校独自の取組&gt; ～職員の共通理解・共通実践を基に～

## 【コミュニティースクール(CS)として地域に根ざし信頼される学校づくり】

①学校運営協議会を中心に、地域の願いを地域とともに実現する工夫を重ね、人と関わる温かさを体験する。

②砂川楽（立川市民科）における取組を通して、地域と関わり地域に生きる生徒を育成する。

## 【全教育活動を通した人権（生命）尊重の精神の育成】

①生徒理解に根ざした指導 ②いじめ未然防止・暴力否定の指導の徹底 ③計画的な人権教育の遂行

## 【学習・生活(いじめ未然防止含む)指導の充実】

①基本的生活習慣や生活態度を身に付ける。その上で、将来に向けた目標を自ら考え、学習や生活に主体的に取り組もうとする態度を育成する。（学校支援員やSC・SSW・諸検査・調査データの有効活用）

②いじめ未然防止、防災対応・避難訓練・安全指導、薬物乱用防止教育、がん教育、性教育等の指導に継続して取り組む。

③不登校傾向生徒減少へ向けた、ステップ（校内での居場所）の充実と校内委員会の活性化等、適切な運営。

## 【カリキュラムマネジメントの充実を目指す工夫と改善】

① 各教科、特別活動、総合的な学習の時間と道徳科を連携させ、生き方を深く考え実践する教育活動を追求する。

② 3年間の教育活動における地域等の教育資源の活用と教育に資する時間を的確に管理したカリキュラム・マネジメントの充実を図り、教育活動を効果的・効率的に推進し、生徒の生きる力の育成を目指す。

【学習指導・事務の効率化】校務P C、ChromeBook を活用し、教育事務の効率化と効果的な指導法の改善に努める。

## 【進路指導の充実】

中学校卒業後の多様な進路に即し、生徒が持続して自己啓発を図る意欲と態度を養うため、中学校3年間の進路指導の再構築に継続して取り組む。また、校区内3校の小学校における立川市民科の実践や学力・体力向上等の情報共有を進め、校区の子どもたちの9年間を見通した連携計画の検討に継続して取り組む。

## 【生徒と接する全ての機会を通し、心身のわずかな変化を見逃さず、最善の指導に繋げる臨機応変に対応する】

生徒の生命を守り学習活動を支えるため、生徒のわずかな変化に教職員が気づき、学校としての的確な対応を迅速に決定し、関係機関との連携を密に行い、学校・家庭・地域等での確実に実践に繋げる。

## &lt;学力向上（指導力向上）に関すること&gt;

「思考力・判断力・表現力を育成するカリキュラムマネジメント」をテーマとした、授業研究に取り組み、生徒の学びに向かう力の育成を図る。

(1)基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させるとともに、主体的・対話的で深い学びの実現のための授業改善に継続して取り組む。

(2)生徒が自ら単元（1時間）の目標を選択し、目標達成のための学習に取り組み、自らを振り返ることで、今後の学習改善に生かす。このようにPDCAサイクルの視点をもった授業に取り組む。

(3)生徒用P C、I C T教育機器の機能を全職員が活かし、ソフトウェア・ハードウェアを生かした効果的な指導方法の工夫と改善を図る。

## &lt;国際理解教育・ボランティアスピリットの育成に関すること&gt;

東京2020レガシーの取組を通して、生徒の様々な資質の向上を図る。

(1) 教科・領域の指導を横断的に活用し、根拠に基づき健康・体力への興味・感心を高め体力の向上を図る。特に国際理解教育、異文化理解教育、障がいをもつ方を理解する取組を重視する。

(2) 東京2020レガシーを多面的に充実させ、学外の講師を招聘し全校生徒の学びの機会の充実を図る。

(3) 小中連携の取組を通して、体力向上を図る指導の一層の工夫と改善に務める。

## &lt;特別支援教育・教育相談の充実に関すること&gt;

個に応じた指導方法の工夫・改善を図る。

(1) 知的障害に係る固定学級設置校として、全校体制で交流教育の推進を図り、意図的計画的にコミュニケーション能力を伸ばす授業と行事に取り組み、インクルーシブ教育を充実させる。

(2)教職員が、特別支援教室プラスにおける指導成果を共有し、様々な指導方法を理解し、個に応じた指導方法の工夫と改善に取り組む。

(3)不登校生徒への指導の充実を図るため、ステップの活用の充実を図る。（教職員組織と地域人材の連携した活動）